

日本列島の竹は人とともに生きてきた。取る者、作る者、使う者、商う者。それぞれが離れては繋がりが失われては蘇る。焼畑の循環。ブルーノ・タウトが見た美。この日、上州、八女、薩南、そして出雲が出会う。編み繋がる竹と人間の物語に驚く日。

このイベントは「竹はなぜ放置されるのか——斐伊川流域圏で考え動くための連続環境セミナー」として実施するもので、しまね自然と環境財団平成二十六年環境保全活動の助成を受けています。

デザイン—石川陽春



竹に 敬馬 の日

映画 タケヤネの里

二〇一一年 / 青原さとし監督作品(ドキュメンタリー映画)

一月二十五日 ①午前十時三十分 ②午後二時三十分 ③午後五時三十分 開場は各回三十分前
前売鑑賞券一〇〇〇円、当日券一三〇〇円、障害者の介助者・高校生以下無料(先着順・自由席)

映画 竹の焼畑

二〇〇一年 / 民族文化映像研究所製作 / 鹿児島県歴史資料センター・黎明館委嘱 / 鹿児島県十島村恵石島

一月二十四日 ①午前十時三十分 ②午後三時 開場は各回三十分前
鑑賞券五〇〇円、障害者の介助者・高校生以下無料(先着順・自由席)

スペシャルトーク **青原さとし** (ドキュメンタリー映像作家) × **前島美江** (群馬県ふるさと伝統工芸士)
一月二十五日 午後一時 参加無料

ワークショップ **竹皮編み** 前島美江による竹皮編みの実演講話と竹皮細工(ラワー・バスケット)の制作

一月二十五日 ①午前十時三十分—午後十二時 ②午後二時三十分—六時 席があき次第随時(およそ二十一—六十分)
参加費五〇〇円(材料費)

カフェ竹林 工芸や竹にまつわる資料を展示。お茶のサービスあり 午前十時—午後六時 入場無料

二〇一五年 一月二十四日 土・二十五日 日

松江市市民活動センター **ST-CCビル** 島根県松江市白鷺本町四三

主催—NPO法人さくらおろち 共催—「タケヤネの里」上映実行委員会、松江キネマ倶楽部 後援—松江市、出雲市、雲南市、奥出雲町

チケット取扱所—島根県民会館、プラバホール、今井書店主要店、チェリヴァホールほか

連絡先—NPO法人さくらおろち

〒六九九一—三三二 島根県雲南市木次町平田七七九—一
電話・FAX 〇八五四—四八—〇七二九 www.sakura-orochi.jp



映画 タケヤネの里

二〇一一年／青原さとし監督作品(ドキュメンタリー映画)

一月二十五日①午前十時三十分②午後二時三十分③午後五時三十分 開場は各回三十分前(上映時間百二十分) 会場——五階 交流ホール

前売鑑賞券一〇〇〇円、当日券一三〇〇円、障害者の介助者高校生以下無料(先着順・自由席)

●映像作家青原さとしは、民俗文化映像研究所時代の友人・前島美江さんを、十数年ぶりに訪ねる。そして、驚く。なんと彼女は群馬県高崎市の伝統である「竹皮編み」の技を磨き、群馬県の伝統工芸士にまでなっていた。

●この竹皮編みの原材料である竹皮は、カシダケという福岡県八女市星野村、黒木町、うきは市にしか生えていない、全国でもまれな竹の皮を使っている。美しく白い皮が特徴的で、江戸時代以前から包装用や高級雪駄、こぼり、草履、本バレンなど様々な生活用具に利用され、日本全国に出荷されてきた。

●しかし竹皮、竹材の需要の激減、竹林農家の人たちの高齢化などに伴い、衰退の途へと進んだ。

●そして二〇〇六年、この状況を打開しようと前島さんは、東京、福岡などの都市生活者に呼びかけ、地元の人と一体となり竹林保全のプロジェクト「かぐやひめ」を開始した！

●映画はこの「かぐやひめ」の活動を追いつながら、九州の山岳地帯の竹皮をめぐる知恵と暮らしを浮き彫りにしていく。

●日光下駄本ばれん&浮世絵師羽帯など関東一円に広がる職人たちの巧みな技、関西方面の竹皮商、履物屋をめぐる流通の歴史、さらには竹皮にまつわるお茶道、身分制社会のありようにまで踏み込んでいく、竹と人間の壮大な営みを浮き彫りにするロードムービー。

映画 竹の焼畑

二〇〇一年／民族文化映像研究所製作／鹿児島県歴史資料センター黎明館委嘱／鹿児島県十島村悪石島

一月二十四日①午前十時三十分②午後三時 開場は各回三十分前(上映時間六十分) 会場——二階二〇一・二〇二研修室

鑑賞券五〇〇円、障害者の介助者・高校生以下無料(先着順・自由席)

●悪石島の全島を覆う琉球寒山竹は、株立ちで育つ熱帯性の竹で、その旺盛な繁殖力で島の地力を養ってきた。

●その竹山を焼いて栗を栽培する焼畑アワヤマは、昭和三十年代末に途絶えていた。これはその復元作業の記録である。

同時開催——青原さとしトーク(午後)、交流展示カフェ 竹林整備や焼畑をはじめ、森、竹の活用に関する資料多数(午前十時—午後四時)

スペシャルトーク 青原さとし(ドキュメンタリー映像作家) × 前島美江(群馬県ふるさと伝統工芸士)

一月二十五日①午後一時(二時間) 会場——五階 交流ホール 参加無料

●青原さとし

一九六一年広島市生まれ。龍谷大学仏教学科卒。映像を志し上京、一九八八年民族文化映像研究所入所。所長・姫田忠義に師事し、日本列島に伝わる様々な庶民の生活文化の映像記録作業に携わる。二〇〇二年退所後は、独立してドキュメンタリー映画の制作を行う。作品に『土徳——焼跡地に生かされて』『タケヤネの里』『藝州かやぶき紀行』など。

鹿児島県歴史資料センター黎明館の川野和昭氏が企画した悪石島の竹の焼畑の再現実証映画『竹の焼畑』にも携わっており、竹と自然と人間の関係について探求を続けている。

●前島美江

ダムに沈んだ村、越後奥三面民俗調査を経て、ブルーノ・タウトが高崎の雪駄職人たちと作りあげた竹皮編み工芸をただひとり伝承している。

『タケヤネの里』で映された「八女カシダケ活用プロジェクトかぐやひめ」の活動は他の団体との連携などの広がりを生み、現在地元群馬での後継者育成事業を主に、各地で上映会・個展教室を開催している。

ワークショップ 竹皮編み 前島美江による竹皮編みの実演講話と竹皮細工(フラワーバスケット)の制作

一月二十五日①午前十時三十分—午後十二時②午後二時三十分—六時 席があき次第随時(おおよそ二十一—六十分)

会場——五階五〇五または五〇六研修室 参加費五〇〇円(材料費)

●竹皮編み

素材は、あのおむすびを包む竹の皮。それを細かく裂いて巻きながら針で縫い込むコイルリング手法という丈夫で手こたえのある技法で作られます。

ドイツ人建築家ブルーノ・タウトによるデザイン指導と、上州高崎の地で草履表(南部表)を作っていた職人の技術によって、新しい伝統工芸が創りあげられました。

福岡県八女地方に産する上質な白竹(学名カシダケ)を用い、すべてが手仕事ならではのあたたかいぬくもり、素朴さの中にある健康的な力強さを手にとっていただければ感じていただけるはず。パンかごやバスケットをはじめ小さなボタンからコースター、椅子の座面、などさまざまな場面に生かされています。ワークショップでは竹皮編みの基本が学べる「花かご作り」を実施します。

カフェ竹林 工芸や竹にまつわる資料を展示。お茶のサービスあり 午前十時—午後六時 会場——五階五〇六研修室 入場無料

